

地域福祉の充実をめざして、支える心のネットワーク。



赤い羽根共同募金

2016

11

November



福祉ちば

編集・発行  社会福祉法人千葉県社会福祉協議会

No.172

特集

高校生のアイデアと実行力が地域を元気にする!

～地元企業を巻き込んだ銚子商業高校の取り組み～

地域の福祉活動

[八千代市]八千代台西北支会

エールちば

「心のボランティア・ちば」20周年を迎えて

いきいきかがやく

Youth for 3,11

美味しさ満開♥福祉の魅(味)力を召し上げれ

ナチュラルカフェ+ショップ hanahaco

表紙の人
千葉県立
銚子商業高等学校と
銚子電鉄のみなさん

→詳しくは
P2 特集で。



ハルーン列車の飾り付け



犬吠駅で壁の塗り直し中



ペイントアート完成!



イベント販売



キャベツメロンパン



銚子夢市場

高校生のアイデアと実行力が 地域を元気にする!

～夢を現実にする銚子商業高校生の“本気”が銚子のまちを動かす～

2年前、脱線事故を起こし廃線の危機にあった銚子電鉄。それを支援し、救ったのは千葉県立銚子商業高等学校（以下、銚子商業高校）の生徒たちでした。その銚子商業高校が今度は老朽化した駅舎を修繕するプロジェクトに取り組んでいます。

「地域を元気にしたい!」と“本気”で取り組む生徒たちの、地元企業や住民を巻き込んだ活動を取材しました。

地域活性化のテーマは 高校生自らが選ぶ

銚子商業高校は、商業科・情報処理科・海洋科の3つの科で構成される1900年創立の伝統校です。

3年生になると「課題研究」の授業があり、生徒はそれぞれ研究テーマを選んで授業に出席します。銚子商業高校では「私たちの学校から地域に夢を広げよう」という思いを込めた『銚子夢市場プロジェクト』に3年前から取り組んでおり、空き店舗を活用してお店をオープンしたり、地元企業と協働で新商品の開発に取り組んでいます。また、赤字に苦しむ銚子電鉄の支援活

動を行う等、企業でも即戦力となりうるような人材養成、プロジェクトを数多く実践してきました。

平成28年度、「地域活性化」をテーマに選んだ生徒は36名。参加したきっかけについて、多くの生徒が「先輩たちの活動を見てすごいと思った。自分もやってみようと思った」と異口同音に答えました。

銚子電鉄を救った クラウドファンディング

平成26年1月、銚子電鉄で脱線事故が発生。それまで何度も廃線の危機に直面し、立て直してきた銚子電鉄でしたが、この時は車輪の修理費を捻出するのは困難な状況でした。そこで当時の銚子商業高校の銚子電鉄を支援するチームは、車輪の修理費用を集めるためにインターネットで寄付を募る「クラウドファンディング*」を実施したのです。

65日間で目標額の300万円が集まらなければ成り立たないこのクラウドファンディングは、多くの方の共感を得、結果として484万3千円の資金が集まりました。加えて現金書留や学校へ持参された地元の方々などの寄付も合わせると約500万円にもなったのです。このお金は全額銚子電鉄に寄贈され、無事に車輪の修理が行われたのでした。

地元商業施設やイベントで 自ら開発した商品を販売

3年前から、市内の商業施設「ウォッセ21」の空き店舗を活用して、生徒自身が運営する「銚子夢市場」をオープンしています。この店では地元の名産品やおみやげだけでなく、生徒が開発した「キャベツメロンパン」やぬれ煎餅をアイスに混ぜた「ぬれ煎餅アイス」なども販売しています。地元老舗製菓店の山口製菓舗と連携して開発した「キャベツメロンパン」は人気を呼び、市のふるさと納税の返礼品に選ばれています。その他にも、イベント等で生徒が開発した商品が地元企業や商店と協働で開発した新商品を販売しています。

生徒自身が商品陳列から接客、販売まで行うので、自分たちが開発した商品の売れ行きもわかり、商品への感想や反応もお客様からダイレクトに聞くことができます。

また、あいさつや接客マナー、商品説明の工夫やディスプレイ方法など、店舗を経営するノウハウを学ぶ場にもなっています。

今度は駅舎の修理費を クラウドファンディングで調達

銚子電鉄を支援するチームは今年度、老朽化した駅舎を修繕してきれいに「銚子電鉄メイクアップ・プロジェクト」を立ち上げました。まず取り組んだのは、汚れた目立つ犬吠駅の壁をペンキで塗り直しペイントアートを施す作業。地元の人に愛される絵を目指し、近くの幼稚園児にも参加してもらい、手形の模様をつけて完成させました。

さらに、破損個所の多い「仲ノ町駅」を修繕する費用を募るクラウドファンディングを7月から実施。チームリーダーを務める尾池月奈さんは「銚子電鉄は私たち高校生や沿線に暮らす高齢者にとって、なくてはならない交通手段であり、昔から地域の人に愛されている大切な存在です。だからこそ応援したいんです」と、熱い思いを語ってくれました。

尾池さんは一人でも多くの人から寄付を集めようと、インターネット上で呼びかけるだけでなく、チラシを作成して商業施設やイベント会場で配りました。そうした行動を見た高齢者が「インターネットは苦手だから」と、ポチ袋に寄付金を入れて学校まで持参してくれたりしたそうです。こうした努力が功を奏し、目標額の100万円に無事到達することができました。



尾池 月奈さん (3年生)

高校生のアイデアを 企業が一つひとつ形にする

銚子電鉄のクラウドファンディングに寄付してくれた方へのお礼の品についても、生徒が銚子電鉄の社員と一緒に知恵を絞りました。つり草に名前を入れるサービスや電車のヘッドプレートをデザインできる権利などのアイデアは、大変喜ばれたそうです。

今、銚子商業高校には地域の様々な機関

や団体から、イベントへの協力や企画の依頼が寄せられています。11月には大手製パンメーカーとのコラボ商品も発売され、関東エリアの店舗に商品が並ぶ予定です。

「誰かがやってくれる」から 「まず自分が動く」への成長

「銚子夢市場」地域活性化プロジェクト主任を務める、銚子商業高校の石毛宏幸先生は「プロジェクトに参加することで生徒たちは大きく変わります。多くの生徒は地域貢献活動について初めは『自分がやらなくても、誰かがやってくれるだろう』という考え方をしています。それがプロジェクトを通じて『まず自分がやらなければ』『自分がやらなくて誰がやるんだ』という意識に変わります。それは自分が起爆剤となって動くことで、周囲の人が協力してくれるようになることに気づくからだ」と生徒の成長に目を細めます。

地域を元気にするには 若い力を育て、チームを組もう

地域を元気にするポイントを石毛先生に伺いました。「元気の源は、若い力を育てること。その核となるのは高校生です。高校時代に地域貢献活動に取り組んだ生徒は大人になっても地域を大切に思い、活動を続けていきます」。

そして、「あとは地域がまとまるということ。これは若者だけではなく、大人もまとまるということです。銚子では以前から、様々な団体



石毛 宏幸さん
千葉県立銚子商業高校
教諭

がそれぞれの専門分野において地域活性化に取り組んできました。しかし、個々の団体で取り組んでいるため連携が取れていない状況がありました。銚子商業高校には様々な人や団体関わっています。一つのことをやるにしても、みんながチームを組んでやる体制をつくるのが地域を元気にします。これは地域づくりを進める上で大切なことだと思います」と話してくれました。

銚子商業高校から地域に夢を広げるプロジェクト。地域を元気にする活動の輪は確実に広がっています。

Voice



黒澤 崇さん
銚子電鉄 取締役 経営戦略担当

高校の「課題研究」の授業にも参加して、生徒さんと意見交換を重ねながらアイデアを形にしてきました。我々では考えつかないアイデアが次々に出て、毎回強い刺激を受けています。それだけでなく、生徒さんは土日返上で銚子電鉄のイベントに協力してくれています。そうした姿に社員一同、身が引き締まる思いです。銚子電鉄にとって、銚子商業高校の生徒さんの力はなくてはならないものになっています。行動力・実行力は本当に「すごい」の一言。自分たちも銚子のためにもっとがんばっていきたいです。

※ クラウドファンディングとは?

クラウドファンディングとは、特定のプロジェクトやベンチャー企業が、インターネット経由で資金提供を呼びかけ、不特定多数の人から出資を募る手法です。公開期間が定められ、期間内に目標額を達成することが求められます。石毛先生によると「クラウドファンディングは、多くの人の共感をいかに得るかが鍵となります。『自分のため』よりも『誰かのためにこれがしたい!』という、地域貢献や社会貢献につながるプロジェクトのほうが成功しやすいと思います」とのこと。最近福祉関係のプロジェクトでも活用されるようになりました。詳しくはインターネットで「クラウドファンディング」と検索してみてください。

地域の和菓子店と連携して新商品を開発



崎山 七彩さん (3年生)

私は新商品開発のメンバーとして、銚子にゆかりのある竹久夢二が詠んだ「宵待ち草」という詩歌をイメージした練り菓子を開発しました。地元の和菓子店に協力していただきながら、実際の宵待ち草の花に似せた形、色にしようと試行錯誤しました。地域のお店と一緒に、地域のために商品を作り上げていく活動は、ワクワクするような貴重な体験でした。これからも、様々な形で銚子の魅力を発信し、もっと若い人が集まる銚子にしたいなと思います。



「和菓子 宵待ち草」
銚子市の和菓子店「たか倉」にて販売中



将棋教室 (高齢者複合ケア施設グリーンヒル八千代台 地域交流室にて)

支え合いの活動は子どもたちの笑顔が原点

八千代市では地区社会福祉協議会のことを、地域のために様々な人が支え合う会という趣旨から「支会」と呼んでいます。八千代台西北支会では、地域の小中学校や高齢者福祉施設などと顔の見える関係づくりを進めながら、子どもたちを中心とした世代間交流事業に取り組んでいます。

30代から70代までの幅広い世代が活動

八千代台西北支会(以下、西北支会)の活動エリアは、京成線八千代駅周辺の商業施設が多く立ち並ぶ区域です。東京のベッドタウンとして発展してきましたが、近年は高齢化が進み、市内でも高齢化率が高いエリアに挙げられます。その一方、駅近な利便性から若い世代の転入者も多く、区域内に八千代台小学校と八千代台西小学校の2つの小学校と、八千代台西中学校があり、地域の行事は大勢の子どもたちでにぎわいます。

支会の構成員は「福祉委員」と呼ばれ、西北支会では29名の福祉委員が活動しています。「特徴的なことは30代から70代までの幅広い年齢層の方が揃っていることです」と



八千代台西北支会とボランティアのみなさん
前列左から4人目が会長の保坂恭子さん。後列右端が施設長の小澤久雄さん

西北支会の保坂恭子会長は言います。市が開催している「子育て出前広場」に西北支会として協力していることがきっかけで、子育て中のお母さんが支会の活動に関心を持ってくれたり、PTAの役員をしていた若い世代が福祉委員として参画してくれており、様々な世代の意見を活動に活かせることは西北支会の強みだといえます。活動拠点が八千代台小学校の余裕教室であり、小中学校との結びつきが強いことも特徴です。

敬老事業から地域全体の活動へ軸足を移す

西北支会はずっと敬老事業を中心に活動を進めてきましたが、介護保険サービスが充実してきたことや、平成14年度に学校週5日制が完全実施されたことなどをきっかけに、子どもたちを対象とした事業や世代間交流の活動に軸足を移しました。その中で、健全な学校外活動の支援と地域住民との交流の場づくりを目的とした「すばる」の活動がスタートしたのです。

「すばる」は、2つの小学校の全児童を対象に、「囲碁」「将棋」「絵画」の3つの教室をそれぞれ月1回開催しています。学校を通じて募集する参加者は年々増加しており、平成28年度は囲碁14名、絵画33名、将棋37名が登録しています。囲碁



絵画教室の児童が描いたグリーンヒル八千代台の玄関脇の巨大な壁画

と絵画の会場は八千代台小学校の余裕教室を使っていますが、将棋は社会福祉法人翠耀会(すいようかい)の高齢者複合ケア施設「グリーンヒル八千代台(特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護等を運営)」が会場となっています。

高齢者福祉施設で小学生の将棋教室

西北支会とグリーンヒル八千代台との交流が始まったきっかけは、平成19年10月にグリーンヒル八千代台が支会区域内で開所し、施設側からの提案で「すばる」の絵画教室の子どもたちが、施設玄関脇の壁に巨大な壁画を描いたことでした。その後、将棋教室の会場だった八千代台小学校の教室が耐震工事の関係で使えなくなり、困っていたところ、小澤久雄施設長から「それなら施設内の



将棋教室

地域交流室をぜひ使ってください」という申し出があったことで施設内での将棋教室が始まりました。

小澤施設長は「地域貢献は社会福祉法人の大切な役割です。場所を提供することによって多くの地域の方に当施設を知っていただく機会にもなります。せっかく街中に建てた施設なので、大勢の地域の方に来ていただきたいと考えていました。なにより利用者さんが、子どもさんの訪問を楽しみにしており、子どもさんの声が聞こえると表情が明るくなります」と、施設側にもメリットがあると指摘します。

福祉施設だからこそ伝わる高齢者の姿

以前は施設利用者で将棋好きな方が子どもたちと対局を楽しんでいたこともあったそうです。子どもたちも高齢者の福祉施設を利用することで、例えば小規模多機能型居宅介護の「通い」を利用する介護度の重い利用者の姿に触れる機会が頻繁にあります。子どもたちは自然にあいさつし、利用者に配慮するようになります。核家族化が進む中、高齢者のそのような姿に接する経験も貴重だといえます。

2時間の教室が終わると、子どもたちは自ら後片付けを手伝い、礼儀正しくあいさつをして帰っていきます。学んでいるのは将棋の指し方だけではないのです。

対局の相手を務める地域のシニア男性たち

将棋教室では、経験豊富な方々が講師を務め、本格的な指導が行われています。小学生同士での対局に留まらず、福祉委員や地域ボランティアも加わって、子どもと真剣勝負を繰り返しています。「最初のうちは子ども同士で組みたがるのですが、回を重ねるにつれて大人との会話や対局を楽しめるようになります。まさに世代間交流の場となっています」と保坂会長。

支会の広報紙で囲碁と将棋のボランティアを募集したところ、シニア世代の男性も多数応募してくれました。「将棋や囲碁であれば男性の方の協力も得やすくなります。地域のシニア世代の方の特技を活かしてもらおう機会になっており、将棋教室以外の場での交流にもつながっています」とのこと。当日将棋を打つボランティアの皆さんはみな生き生きとした表情でした。

「すばる」では囲碁と絵画の教室もありますが、そこでも地域のボランティアが活躍しているとのことでした。

毎年恒例の一大イベント「ふれあいフェスタ」

西北支会では毎年秋に世代間交流事業「ふれあいフェスタ」を主催しています。地域の14の自治会、小中学校、地域包括支援センターなど、様々な機関や団体に協力を要請し、八千代台小学校の校庭で行う大規模なイベントです。例年100名ほどのスタッフが集まり、2,000名ほどの地域住民が参加します。昨年はフリーマーケットや小中学生によるコンサート、地域の高齢者が昔遊びを伝えるコーナーなどで交流を深めたほか、小中



クリスマス会

生が住みよいまちづくりについて提案を行う「八千代子どもサミット」の発表会も大きな注目を集めたそうです。

この他にも、小学生を対象としたクリスマス会や、月1回公民館で開催されている「子育て出前広場」に福祉委員が出向いてサポートする取り組みも進めています。

子どもたちが戻って来たいと思う地域へ

高齢化が進む八千代台地区ですが、これからも元気なシニア世代と子どもたちが触れ合う世代間交流事業に力を入れていく計画とのことでした。

「子どもたちの多くはいずれこの地域から出ていくことになると思いますが、地域で楽しい思い出をたくさん作れば、いつかここに戻って来て、地域のために活動してくれると思います。私自身がそうでしたから…」と語る地元出身の保坂会長。地域の未来を見据えた支会の活動が、世代を超えて住民同士を結んでいます。



ふれあいフェスタ

このポスターも児童の作品

八千代市社会福祉協議会 TEL 047-483-3021 FAX 047-483-3083

地域で支える子どもの居場所「ふらっとホーム」がスタート!



ふらっとくん

子どもの貧困が社会問題として取り上げられる中、八千代市社会福祉協議会(以下、八千代市社協)は「ふらっとホーム」を7月7日にオープン・スタートしました。

ふらっとホームでは、食育を意識した手作りの夕食の提供をはじめ、家庭的なだんらんの場の提供、学習支援の一環としての宿題のサポートなどを行っています。毎月第1・第3木曜日の月2回開いています。

ふらっとホームを始めるきっかけは、八千代市社協が



管理する「福祉振興基金」を、住民の福祉のために積極的に活用する方法を検討するために設置した、内部職員で構成するプロジェクトチームでの議論でした。その議論において、八千代市社協では子どもへの個別支援をほとんど行っていないかったこと、子どもが安心して過ごせる居場所を市社協として作っていく必要があるといった意見が出され、ふらっとホームの開設に結び付いたのです。

オープンに向けた4月、ボランティアを募集したところ30名弱の応募がありました。同じ頃教育委員会に協力を求め、学校にチラシの配布をお願いしました。ふらっとホームのことを聞きつけた支会の役員さんから野菜の差し入れがあるなど、食材の提供は多くの方にご協力をいただいています。

7月7日のオープンの日。食事作りや見守りを担当するボランティア17名、子ども7名が集まりました。宿題の支援やゲームなどに取り組んだ後、一緒に夕飯を食べて楽しく過ごしました。

プロジェクトメンバーの内樹賢治さんは「始まったばかりで、まだ手探りの状態です。子どもの参加が思ったほど増えておらず、当初は経

済的な支援を必要とする家庭を対象と考えていましたが、経済的な困窮者だけでなく、孤立や孤食などの問題を抱えている子どもにも広げることになりました」と話します。一方で、「市社協の事業を1つのモデルとして見てもらい、「自分たちの地域でもやりたい」と手を上げる支会が出てくれば、市社協が活動資金を助成したり運営のノウハウを伝えていきたいです」とも話してくれました。

子どもの貧困問題に対する八千代市社協の実践はまだ始まったばかりですが、基金を有効活用した具体的かつ先駆的な取り組みは、一歩ずつ着実に前へ進んでいます。



八千代市社協のみなさん

※八千代市人口: 195,371人 65歳以上人口: 47,077人 高齢化率: 24.1% (平成28年4月1日現在)

人柄に寄り添い、同じ時を過ごす

精神保健福祉ボランティア

～「心のボランティア・ちば」20周年を迎えて～



「すずらん」での一コマ（交流バスハイクに向けて話し合い）

精神に障害を持つ方々の、良き理解者・支援者となり、安心・安全に暮らせる社会や地域づくりを目指す、精神保健福祉ボランティア。その活動内容は、個人と個人のつながりによるものから、県域で行うものまで、多岐に渡ります。

今回は、「心のボランティア・ちば」代表や「NPO法人すずらん」の地域活動支援センター*施設長を務めるなど、福祉の現場で精神に障害を持つ方々に寄り添い続けている、黒田知映さんにお話を伺いました。

▶精神保健福祉ボランティアに携わったきっかけは。

黒田：平成2年に健康診断で出会った保健所の保健婦長さんに誘われて、精神障害を持つ方々のためのデイ・ケアにボランティアとして参加したことをきっかけに、この世界に足を踏み入れました。精神障害について当時全く無知だった私ですが、当事者の方がとても喜び、歓迎してくれたことが、今でも活動の原動力になっています。

▶黒田さんが代表を務める「心のボランティア・ちば」について教えてください。

黒田：県内で精神保健福祉ボランティアとして活動している、または関心を寄せている個人の集まりです。現在、46名の個人会員が在籍しています。

千葉県は平成4年から精神保健福祉ボランティアの養成を始めましたが、私も含めて講座の修了者から「仲間づくりがしたい」「活動する場が欲しい」という声が上がっていました。そこで千葉県精

神保健福祉センターに相談し、平成8年10月に「心のボランティア・ちば」を設立できることとなりました。初代の代表は私が務め、その後代表は交代しましたが、2年前からまた私が2回目の代表となっています。

前述したように「心のボランティア・ちば」は、この分野では珍しい個人の集まりです。独自で福祉活動を行っている会員も多く、私も「NPO法人すずらん」を立ち上げ、活動しています。

▶「心のボランティア・ちば」の主な活動内容を教えてください。

黒田：「心のボランティア・ちば」は「仲間同士の連携」、「精神障害者の理解と実践活動への研鑽」、「地域社会の働きかけと協力の輪」、「千葉県精神保健福祉協議会の活動への参加と協力」の4つの目標を掲げて活動しています。

主な事業としてはまず、年1回開催されている「精神保健福祉ボランティア全国のつどい」への参加が挙げられます。千葉県でも平成15年にこの「つどい」

を開催したのですが、この回に初めて精神障害を持つ当事者が登壇してくれました。これを機に、県内ではこうした表舞台に立ってメッセージを発してくれる当事者が増えたのです。

また、千葉県精神保健福祉センターと県社協が年1回開催している「精神保健福祉ボランティア・フォローアップ講座」へも企画から協力を行っています。

他にも県が開催している「心の健康フェア」など、福祉に関する様々な事業に参加、協力を行ったり、市町村社協で開催する精神保健福祉ボランティアの研修会への協力も行っています。最近では、茂原市や八千代市社協の研修で講師を務



精神保健福祉ボランティア全国のつどい



精神保健福祉ボランティア・フォローアップ講座

め、その後ボランティアグループが誕生したところもあります。

▶活動20周年を迎えた「心のボランティア・ちば」ですが、平成28年12月でその幕を閉じるとのことです。

黒田：前提として、会員数がピーク時の250名から大きく減ってしまっていたのです。これは、地域の支部として活動していたグループが独立するケースが出てきたからです。

活動終了の理由としては複数ありますが、一番は高齢化に伴い「ボランティア活動自体は行えるが、団体の核を担うの



すずらん劇団の公演

は大変」というメンバーが増え、団体運営が難しくなってきたことです。若い世代は働きに出ているので、世代交代もなかなか難しかったのです。

「心のボランティア・ちば」は活動を終えますが、これまで携わってきた事業には引き続き参加・協力したいと思っています。

▶「NPO法人すずらん」について、もう少し詳しく教えてください。

黒田：自身が施設長を務める地域活動支援センターでは、統合失調症など精神疾患で苦しんでいる方々に、日中の居場所を提供しています。生活のリズムを整えて、人間関係を学んだり、レクリエーションを楽しんだりしています。

その他「すずらん」には職員とボランティア、そして利用者有志で結成した「すずらん劇団」があり、地域のイベントで精神障害の啓発のための公演を行っています。その他にも、2か月に1回地域のショッピングセンターの社会貢献活動に参加したりと、当事者の方自身もボランティア活動を行っています。

▶最後に、読者にメッセージをお願いします。

黒田：精神障害を持つ方々に向き合う時、医師などの専門職だとしても、仕事として病状などについて確認しなければ



くろだ ちえ
黒田 知映さん

心のボランティア・ちば 代表
NPO法人すずらん 理事
(地域活動支援センターⅢ型すずらん 施設長)

いけません。ボランティアだとその人の人柄だけに向き合い、他愛無い話を一緒に同じ時を過ごすことができます。それが、精神保健福祉ボランティアの良さだと思っています。

また、「心のボランティア・ちば」と「すずらん」を立ち上げて思うことは、ボランティア活動は、まちづくり活動なのではないかということです。誰にとっても安心・安全な暮らしの実現に向けて、必要なことを提案し、自分たちで創りあげていく活動でもあるということです。

「心のボランティア・ちば」は解散しますが、今後は各地域で、市町村社協のボランティアコーディネーターが活動の調整役となって支えてほしいと思っています。核になってくれる人がいれば、活動はきっと続きます。その核を担うことができるのは社協以外にないのではないのでしょうか。大いに期待しています。

(※) 地域活動支援センター：障害者自立支援法に基づく事業所で、利用者に対し創作的活動、生産活動の機会の提供など、地域の実情に応じた支援を行います。

平成28年度 ボランティアコーディネーター研修【精神保健福祉編】を開催します

平成28年度 精神保健福祉ボランティア・フォローアップ講座と共同開催

県社協および千葉県精神保健福祉センターでは、精神保健福祉ボランティアについて学びを深めるための研修会を開催します。

- 対象者／ ■市町村社協においてボランティアコーディネーター業務に携わる方および担当職員 ■地域活動支援センター・施設等で現在活動中の精神保健福祉ボランティアの方
- 日 時／平成28年11月25日(金) 午前10時～午後3時30分 (全2日の研修の2日目ですが、2日目のみの受講もできます) ※1日目は10月28日に終了しました。
- 会 場／千葉市民会館 4階 第3・4会議室
- 内 容／ ■午前の部：講演 「あらためて考える精神保健福祉ボランティア～心のボランティア・ちばの20年のあゆみを振り返って～」 講師 心のボランティア・ちば ■午後の部 ①実践報告 「精神保健福祉ボランティアの育成～社会福祉協議会での取組～」 報告者 八千代市社協 ②グループワーク 「こころのボランティア これから私たちにできること」
- 問合せ・申込先／千葉県ボランティア・市民活動センター TEL:043-204-6010

学生ので東北の復旧・復興と 社会問題の解決に貢献!



URL <http://youthfor311.com/> twitter https://twitter.com/Youth_for_311/ facebook <https://www.facebook.com/youthfor311/>

2011年3月11日に発生し、東北地方に甚大な被害をもたらした東日本大震災。当時、多くの学生が被災地に足を運び、ボランティア活動をしたと考えたものの、具体的にどう動けば良いか解りませんでした。そこで、4人の大学生が中心となって設立したのが、今回ご紹介するNPO法人 Youth for 3.11 (以下、ユース) です。

東日本大震災をきっかけに設立



東日本大震災が発生した日の夜、同じNPOにインターンシップに来ていた4人の大学生が、自分たちが被災地のために何ができるか話し合いました。その結果、自ら被災地に行って活動するよりも、より多くの学生ボランティアを、継続的に被災地に派遣する手段を確立した方が、社会的にも被災地にもメリットが大きいという結論に至り、これがユース設立のきっかけとなりました。

被災地は人手が欲しい。学生はボランティアに行きたいが、「資金や交通手段をどうするか?」「ボランティアは初めてなので不安……」など、様々な心配を抱えていました。ユースは学生がこれらハードルを乗り越えて被災地でボランティア活動できるシステムを考えだし、東日本大震災発生後の1年間で、約1万人もの学生を被災地へ派遣しました。その後も、震災に見舞われた熊本県や、豪雨被害を受けた岩手県など、これまでに1万8千人超の学生ボランティアを全国に送り出し続けています。



「事前研修」と「リフレクション」で ボランティア活動を手厚くサポート

ユースの具体的活動内容を簡単に説明する

少しでも興味や疑問を感じる事があれば、まず現地に足を運び、自分の目で感じて欲しい! そんな学生が増えたらとても嬉しいです。

被災地の課題は、時間とともに変わっていきます。学生の関心が活動できないからこそ、次の1手を積極的に考えていきたいです!

代表
武井裕典さん
立正大学
心理学部3年

事務局
佐藤瑛子さん
明治大学
国際日本学部3年

と、まず、震災の被災地などにある関係機関(地元のNPOや社協など)と連絡を取り、ボランティアが必要かどうか確認します。そして機関の担当者と話し合い、学生に必要な情報(活動の日時、場所、内容、資金援助の有無など)をまとめてホームページに掲載。それを見て応募してきた学生に対し、現地での活動内容を説明し、疑問や不安などを可能な限り解消するための「事前研修」を行ってから、現地へ向かってもらいます。そして、活動後には「リフレクション」と呼ぶ事後研修を行い、1人ひとりから活動内容や感想などを発表してもらいます。

「活動を終えた参加者から感想を聞くのは楽しいし、参加者が社会問題に気づき、それに熱心になってくれることが嬉しいです」と、事務局の佐藤瑛子さんは話します。実際、活動のリピーターは2割を超えるそうです。

第一次産業の支援活動で 地域への愛着を育てる

ユースがもう1つ力を入れているのが、第一次産業を営む方の支援活動です。福島県から山梨県へ引越した農家へ学生ボランティア



を派遣したことをきっかけにスタートし、千葉県内では匝瑳市にある酪農家の支援を行っているとのこと。

「こうした活動を通して、その地域に愛着を持つ学生を増やしたい。そうすれば、その地域で災害も含めて何か起きた時に、動きたい!と思う学生が増えるのではないかと思います。また、学生であっても社会問題の解決に動けるようになることが、私たちの目標の1つです」と、代表の武井裕典さん。



苦勞以上に感じるやりがい 学生でも社会貢献できることを証明

ユースは大学生が運営しているため、企業等の協力はあるもののやはり資金面での苦勞が多いとのこと。また、在学中しか活動できないため、事務局の人材が安定しないのも、悩みのひとつなのだとか。

しかし「活動を通じて様々な団体の方たちと仲良くなれたり、同じ志を持った友人が全国にできたり、派遣先の問題を解決し、社会に貢献したという実感を得られるなど、苦勞以上にやりがいもあります」と、武井さんは力強く話してくれました。

ユースの活動に興味がある方は、ボランティアだけでなく、思い切って事務局での運営にも参加してみたいかがでしょうか。



今年も
千葉県選手団が大活躍!!

ねんりんピック長崎2016が開催されました



第29回全国健康福祉祭ながさき大会(ねんりんピック長崎2016)が10月15日から18日まで、長崎県内の12市3町(離島の杵岐、五島を含む)を会場に開催されました。千葉県選手団は22種目に165名の選手が出場し、水泳での混合フリーレー(281歳以上の部)優勝や、インドアカの1・2位グループ優勝をはじめ、卓球、ソフトテニス、ダンススポーツなど、多くの種目で優秀な成績を収めました。大会期間中は観客を含めて延べ約55万人が参加し、長崎県内はねんりんピックで大いに盛り上がりました。来年は秋田県で9月9日から開催されます。



サッカー



弓道



インドアカ



ダンススポーツ



水泳

長崎大会で
千葉県選手団が
出場した種目

- ①卓球、②テニス、③ソフトテニス、④ソフトボール、⑤ゲートボール、⑥ベタンク、⑦ゴルフ、⑧マラソン、⑨弓道、⑩剣道、⑪グラウンド・ゴルフ、⑫太極拳、⑬ウォークラリー、⑭ソフトバレーボール、⑮サッカー、⑯水泳、⑰ダンススポーツ、⑱ラグビーフットボール、⑲インドアカ、⑳囲碁、㉑将棋、㉒健康マージャン
- ※今大会の千葉県選手団の平均年齢は67.9歳(最高齢は男性87歳、女性83歳)でした。

<主な成績>(敬称略)

種目	種別	順位
水泳	混合フリーレー-281歳以上の部	優勝
	男子50mバタフライ65~69歳の部	準優勝 安藤 次郎(館山市)
	女子50m自由形75~79歳の部	準優勝 中村 史子(我孫子市)
インドアカ	女子50m平泳ぎ70~74歳の部	準優勝 横山 ナツミ(流山市)
	チーム戦	1・2位グループ 優勝
健康マージャン	個人戦女神大橋ブロック	優勝 大島 正純(いすみ市)
	個人戦眼鏡橋ブロック	準優勝 神野 松弘(成田市)
ソフトテニス	団体戦	第1位グループ 第3位
マラソン	5km女子70歳以上の部	第3位 押元 富江(市原市)
ダンススポーツ	団体戦	第5位
	団体戦	第5位(優秀賞)

- 高齢者賞 弓道 牧野 行夫 87歳(いすみ市)
- 問い合わせ先 千葉県社会福祉協議会 地域福祉推進班 TEL:043-245-2208

官野選手、リオパラリンピックで 見事銅メダルを獲得!



前回の福祉ちば171号で特集したウィルチェアーラグビー(車いすラグビー)日本代表の官野一彦選手がリオデジャネイロパラリンピックにおいて見事銅メダルを獲得しました。この種目の日本のメダル獲得は史上初となります。おめでとうございます。

PICK UP 県社協!

新たな貸付制度がスタートします



本会では児童養護施設等を退所した方などや、ひとり親家庭の親の円滑な自立を支援するため、新たな貸付事業を実施します。貸付事業の概要は以下のとおりです。貸付要件等については下記までお問合せください。どちらも返還免除要件を満たせば貸付金の返還は免除されます。お申込みの受付開始は11月中旬頃を予定しており、決まり次第、本会ホームページにてお知らせします。

児童養護施設退所児童等自立支援資金貸付事業

- 貸付対象者: 千葉県内の児童養護施設等入所中又は里親等に委託中の方、大学等への進学や就職のために児童養護施設等を退所、あるいは里親等への委託を解除された方
- 資金種類、貸付金額、貸付期間、返還免除要件

資金種類	貸付金額	貸付期間	返還免除要件
生活支援資金	月額5万円	大学等に在学する期間	卒業後等5年間就労した場合
家賃支援資金	1月あたりの家賃相当額 (生活保護制度上の住宅扶助額の単身世帯の額を限度)	大学等進学者: 大学等に在学する期間	卒業後等5年間就労した場合
			就職者: 就労している期間(退所又は委託解除後2年を限度)
資格取得支援資金	上限25万円	-	就職後2年間就労した場合

- 貸付利率: 無利子
- 連帯保証人: 原則として必要、ただしやむを得ない場合は立てなくても貸付可

ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業

- 貸付対象者: 千葉県内に住所登録をしている方で、高等職業訓練促進給付金の支給を受け、養成機関で就職に有利な資格(看護師、介護福祉士等)を取得し、その資格を活かして千葉県内で業務に従事する意思のある母子家庭の母、父子家庭の父
- 資金種類、貸付金額、資金使途、返還免除要件

資金種類	貸付金額	資金使途	返還免除要件
入学準備金	50万円以内	養成機関の入学に必要な経費(入学金等)	卒業後資格を取得し、県内で5年間就労した場合
就職準備金	20万円以内	養成機関卒業後就職に必要な経費(転居費用等)	

- 貸付利率: 連帯保証人ありの場合は無利子、連帯保証人なしの場合は年1.0%

その他詳細についてはお問い合わせください。 ○問い合わせ先: 千葉県社会福祉協議会 福祉資金部 TEL:043-245-1551



12月1日より 歳末たすけあい募金 はじまります



「NHK歳末たすけあい」は毎年12月に、NHKとの共催で行われる助け合い運動です。お寄せいただいた寄付金は、県内の福祉施設での介護用品や就労支援・作業用品、防災等の備品の整備に役立てられます。「地域歳末たすけあい運動」は、新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人たちが地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな福祉活動を重点的に展開するものです。平成28年度は「つながり ささえあう みんなの地域づくり」をスローガンに12月1日から展開されます。皆さまのあたたかいご協力をお願いいたします。

平成28年度 歳末たすけあい募金目標額 2億7,000万円

NHK歳末たすけあい募金 30,000,000円

市町村歳末たすけあい募金 240,000,000円

平成28年度 第66回
NHK歳末たすけあい募金
平成28年12月1日～25日
全国の金融機関にて手数料無料で受け付けています。

平成28年度
市町村歳末たすけあい募金
平成28年12月1日～31日
各市町村社会福祉協議会等の窓口にて受け付けています。

NHK 歳末たすけあい 助成のご案内

助成内容	助成率	助成上限額	申請期間	助成時期
社会福祉法人、NPO法人等の施設利用者に役立つ備品	算定額の75%	20万円	受付中～11月30日	第一次 平成29年1月 第二次 平成29年3月

初音ミク×赤い羽根 クリアファイル(千葉県限定版)募金

300円以上ご寄付いただいた方にクリアファイルをお送りしています。ご寄付の一部は「赤い羽根募金」として千葉県内の地域福祉に活用させていただきます。詳しくは下記までお問合せください。

赤いはね ちば

社会福祉法人 千葉県共同募金会
〒260-0026 千葉市中央区千葉港4-3 県社会福祉センター2F
TEL:043-245-1721 FAX:043-242-3338

E-mail:c-kyoubo@akaihane-chiba.jp
<http://www.akaihane-chiba.jp/>
https://www.facebook.com/akaihane.chiba/

地域の情報ひろば

裁判所調停員による「調停相談」

■日時：平成28年11月19日(土) 10:00～15:30
■場所：①サンプラザ市原 9階研修室
②千葉市文化センター 5階セミナー室
③サンロード津田沼 6階大会議室
④八千代市役所 1階
■主催：千葉民事調停協会・千葉家事調停協会
■内容：各会場では、千葉地方裁判所と千葉家庭裁判所の調停委員(弁護士含む)が、金銭貸借、土地建物等を巡る民事紛争や夫婦親子関係・相続等の家事紛争について相談に応じます。ただし、現在、訴訟・調停係属中の案件や電話での相談には応じかねます。
■参加費：相談は無料
■参加方法：当日、先着順で受付
■問合せ先：千葉地方裁判所 総務課庶務係 TEL:043-333-5236
千葉家庭裁判所 総務課庶務係 TEL:043-333-5302

東日本大震災被災者支援・東北復興応援イベント「縁joy・東北」2016

■日時：平成28年12月17日(土) 10:00～15:00
■場所：きぼーる広場(アトリウム) (千葉市中央区中央4丁目5番1号)
■対象：どなたでも
■主催：「縁joy・東北」2016実行委員会
■内容：東北に元気を届けよう!
○販売コーナー 東北被災3県の物産販売・県内避難者による手芸品他
○親子であそぼ・体験コーナー プラ板キーホルダーづくり他
○ステージ企画 ゆるきゃらとあそぼう(チーパくん・キビタンが遊びにくるよ) 浪江町伝統芸能「川添の獅子神楽」他
■参加費：無料
■参加方法：申込み不要。直接ご来場ください。
■問合せ先：NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ
TEL:043-303-1688 担当：風間・鍋嶋

第14回ふれあい広場～大人も子どもも、笑顔いっぱい～

■日時：平成28年11月20日(日) 10:00～13:30
■場所：浦安市総合福祉センター(浦安市東野1-7-1)
■対象：どなたでも
■主催：浦安市社会福祉協議会
■内容：市内で活動するボランティア・福祉関係団体が日ごろの活動を多くの皆さんに知っていただくこと、相互活動について理解を深め、地域福祉活動へ寄与すること及び赤い羽根共同募金運動の啓発を目的として開催します。①バザー等の販売及び活動紹介②ステージイベント③赤い羽根PR
■参加費：無料
■参加方法：申込み不要。直接ご来場ください。
■問合せ先：浦安市社会福祉協議会 TEL:047-355-5271

第8回東金チャレンジドフェスタ

■日時：平成28年12月4日(日) 10:00～14:00
■場所：東金市保健福祉センター(ふれあいセンター)(東金市田間3-9-1)
■対象：どなたでも
■主催：東金市社会福祉協議会 第8回東金チャレンジドフェスタ実行委員会
■内容：障害者週間(12/3～9)啓発と地域交流を目的としたイベントです。各種模擬店や団体の活動PR、体験や相談コーナー、にぎやかなステージ等。先着でおもちゃのプレゼント。チーパくんやとちーもやってくるよ!
■参加費：無料
■参加方法：申込み不要。直接ご来場ください。
■問合せ先：東金市社会福祉協議会
TEL:0475-52-5198 FAX:0475-52-8227

広がれ、子ども食堂の輪 inちば

■日時：平成29年1月15日(日) 10:00～16:00
■場所：千葉市文化センター アートホール
(千葉市中央区2-5-1 千葉中央ツインビル2号館)
■対象：一般県民
■主催：NPO法人ちばこどもおうえんだん
千葉県社会福祉士会
千葉県社会福祉協議会
■内容：○講演「広がれ!子ども食堂の輪!」
○パネルディスカッション
○リレートーク「つないでいこう!子どもの未来!」
○まよめセッション「もっと広がれ!子ども食堂の輪!」
■参加費：無料
■参加方法：後日ホームページでお知らせします
■問合せ先：千葉県社会福祉協議会 TEL:043-245-1102

社会福祉施設 経営相談専門家相談カレンダー(平成28年度)

要予約 一般相談・予約は043-245-4450 社会福祉施設経営相談室まで

月	会計等	労務等	法律
11月	7日(月)・21日(月)	2日(水)・16日(水)	9日(水)・24日(木)
12月	5日(月)・19日(月)	7日(水)・21日(水)	14日(水)・26日(月)
29年1月	5日(木)・16日(月)	4日(水)・18日(水)	11日(水)・25日(水)

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

平成28年度
全国200万人
加入!!

補償金額(保険金額)

保険金の種類	プラン		
	Aプラン	Bプラン	
死亡保険金	1,200万円	1,800万円	
後遺障害保険金	1,200万円 (限度額)	1,800万円 (限度額)	
入院保険金日額	6,500円	10,000円	
ケガの補償 手術 保険金	入院中の手術	65,000円	100,000円
	外来の手術	32,500円	50,000円
通院保険金日額	4,000円	6,000円	
特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ		
葬祭費用保険金(特定感染症)	300万円(限度額)		
賠償責任 賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)		

年間保険料(1名あたり)

タイプ	プラン	
	Aプラン	Bプラン
基本タイプ	300円	450円
天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波)	430円	650円

http://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険 検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約事項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。



保険金をお支払いする主な例

ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第三課
TEL:03(3593)6824
受付時間：平日の9:00～17:00(土日・祝日、12/31～1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
営業時間：平日の9:30～17:30(12/29～1/3を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。



田園風景のなかの小高い丘の上に建つ、雑貨ショップが併設になったカフェ。「地域作業所hana」で縫製や製菓などに取り組んでいた法人が2015年3月にカフェ+ショップ「ハナハコ」をオープンしました。

10名の利用者は調理補助や洗い物、店内清掃などを担っています。小鉢の盛り付けをする方、おしぼりをたたむ方、お皿を拭く方など、それぞれが一生懸命に仕事に取り組んでいます。お客様から「おいしい」と評判のドレスिंगも、利用者の手作りです。(左から2人目がお話を伺った初芝小百合さん)

新鮮食材にこだわったカフェのランチ

気持ちのいいテラス席、
ここでは時間がゆったり流れています

ナチュラルカフェ+ショップ **hanahaco**

(運営：特定非営利活動法人コミュニティワークス)



所 木更津市矢那1879-1
営 11:00 ~ 16:00 (L.O.15:00)
☎ 0438-38-4368
休 火曜日
P 駐車場完備



「手際よくコーヒーを淹れることができるように、何度も何度も練習しました」という利用者。慣れた手つきで香りの良いコーヒーを淹れてくれました。



週替わりランチ 豚肉と栗の和風羹



しゃぶしゃぶ定食



週替わりランチ サボイのチーズフライのご添え



hanahacoカレー

食材そのものの味を生かす、やさしい味つけが基本。「週替わりランチ」は「ごはんのみそ汁にあう料理」をコンセプトに、季節感たっぷりの料理が週ごとに2種類用意されています。毎週シェフとスタッフがアイデアを出し合って作りあげており、常連のお客様も楽しみにしているのだとか。また、とれたて野菜の深みのある味を満喫したい方にはサラダバーが用意されています。

「地産産の新鮮な野菜や肉を使うことにこだわっています。野菜のほとんどはこのお店から3km以内の畑で収穫されたもの。すぐ近くに法人の農園もあり、その野菜も使っています」とサービス管理責任者の初芝小百合さん。顔のみえる生産者が育てた旬の食材は滋味豊かで安全・安心です。



ミニクワロ



気持ちいい風が
吹き抜ける
テラス席



併設の雑貨ショップでは、法人の作業所だけでなく外の作業所の商品も扱っています。そのほかフェアトレード商品、日本の伝統技術を活かした商品、ナチュラル系の洋服などがセンス良くディスプレイされています。

体が喜ぶ新鮮食材抱負なメニューとナチュラル志向の雑貨のお店。地域の人にはもちろん、遠方からも大勢のお客様が訪れています。

FUKUSHI-JOB SEARCH
福祉のお仕事

千葉県福祉人材センター
TEL.043-222-1294

福祉のお仕事

検索

<http://www.nw.fukushi-work.jp/>



編集・発行 社会福祉法人千葉県社会福祉協議会

平成28年11月1日発行

〒260-8508 千葉市中央区千葉港4番3号 TEL.043-245-1101 FAX.043-244-5201
<http://www.chibakenshakyo.com>

広報誌「福祉ちば」の発行には、一部共同募金の配分金を充当しています。